

令和7年度 自己評価結果報告書

学校名

成田市立成田中学校

1 学校教育目標

『夢へ』
～誰もが夢を持ち、その一歩を踏み出せる学校～

2 本年度の重点化された具体的な目標

(1)教育課程の整理 (2)“ わかる授業 ”の実践 (3)特別支援教育の充実 (4)キャリアの伝達と開発
(5)生徒指導の機能を活かした指導の実践 (6)情報発信と連携をキーワードとした協力体制の構築との推進

3 自己評価結果

分野・領域	評価項目	評価の指標	取組状況	改善の方策
教育課程学習指導	基礎的基本的な内容の定着が図れるように、学習活動を工夫し、授業を展開する。	86.5%の生徒が授業では何をするか、めあて(ねらい)がわかって勉強している。	A	ICT機器の活用や発問の工夫などを通して、学習課題に対する生徒の興味・関心を高める授業を実践できた。
	学校は伝統や校風、地域の実態を踏まえた特色ある教育を行っている(行事等)。	81.8%の保護者が肯定的な回答をしている。	B	行事や周知の工夫などを通して、保護者や地域に学校の教育活動について更に理解していただく必要がある。
生徒指導	自分の良さや可能性を実感させ、一人一人の生徒に自己肯定感を持たせる指導を行う。	83%の生徒が「学校の中で自分は大切にされている」と答えている。	A	生活ノートによる生徒理解や教育相談、しめアンケートを活用し、対応している。更に、授業や特別活動で達成感や成就感を得られるような活動を意図的に行う。
	生徒一人一人を大切にする生徒指導を推進する。	57.3%の保護者が「学校はいじめや差別のない学校づくりに取り組んでいる」と回答している。	B	事案発生時は、迅速かつ組織的に対応した。不登校傾向の生徒へも丁寧に対応しているが、依然としてその数は多いと感じている。
特別支援教育	特別支援教育への理解を深め、個々の特性や状況に応じた指導・支援をする。	93.6%の生徒が「自分と他人との違いを認め、他を尊重する心が育っている」と答えている。	A	特別支援アドバイザーから通常学級に在籍する配慮が必要な生徒への支援について助言をいただいたり、特別支援教育についてのミニ研修を毎月行ったりするなど、職員の特別支援教育への意識向上に努めた。
	思いやりの心を持ち、主体的に行動する生徒の育成が図られている。	84.8%の保護者が「子どもは生命や人権・平和を尊重する心が育っている」と回答している。	A	
組織運営	学年、学級経営の充実を図る。	81.8%の職員が「組織運営は適切に機能している」と答えている。	B	学年間の連携について、校務分掌において複数の人数を割り当て、より機能的になるよう更に改善を図る。
	校務処理の合理的、計画的運営を図る。	90.9%の職員が「特色のある学校づくりが行えた」と答えている。	A	ICT機器の活用に向けた研修を積み重ね、ICTを活用した協働的かつ個別最適な授業の充実を図った。
研修	研修が充実し、職員が資質の向上を感じ取れるものになっている。	93.9%の職員が、研修が充実し、教職員の資質が向上していると回答している。	A	救急救命研修や接遇研修、ICT活用など、研修が充実していた。
	教職員は、生徒の教育的ニーズに応じた指導を行っている。	93.9%の職員が肯定的な回答をしている。	A	相互授業参観や、道徳推進教員による模擬授業などを通して指導力の向上を図った。
保護者、地域との連携	開かれた学校づくりを推進し、学校・家庭・地域の一層の連携を図る。	79.5%の保護者が「教育方針をわかりやすく伝えている」とし、91.6%が「子どもの様子が伝わる」と回答している。	B	便りの定期的な発行だけでなく、学校HPの充実やすぐるを活用した情報発信の工夫を更に図る。
	安全、安心して生活できる学校環境づくりに努める。	80.4%の保護者が「学校は子どもの安全に気を配っている」と答えている。	B	交通安全について、継続して指導体制を整える。自然災害や不審者対応等に対し学校体制を整えていく。

4 自己評価の結果の分析

学校教育目標を『夢へ』～誰もが夢を持ち、その一歩を踏み出せる学校～とし、生徒や教職員が夢や目標に向けて歩みを進められるように、教育活動を行ってきた。全体的に数値は、昨年度よりも向上した。保護者アンケートでは、学校からの情報発信の仕方や地域との更なる連携などについて、改善を求めるご意見をいただいた。保護者からの意見を受け止め、引き続き、充実を図っていく。

また、生徒の回答において、自己肯定感や、自己有用感に関する回答について、肯定的回答が上昇している傾向が見られた。授業や行事、すべての学校生活の中で、一人一人が活躍し、達成感を味わうことのできる機会・場面を更に意図的に増やしていけるよう、努めていく。

保護者と生徒の間に感じ方等の差異が多く見られる。保護者は、定期テスト等の結果、生徒たちは日頃の授業内容等を重視した回答になったと考える。授業参観や学校公開へ積極的に参観いただくよう引き続き働きかけ、現場の実態を保護者に伝えていきたい。さらに、生徒たちが授業内容の定着、習得を今以上にできるよう、教員も授業に関して指導方法の工夫改善を計画的に図っていきたい。自己研鑽はもちろんのこと、学校職員全体での研修も積極的に取り入れていきたい。